



分散仮想スイッチの保留中の削除の管理

この章の内容は、次のとおりです。

- [分散仮想スイッチの保留中の削除, 1 ページ](#)
- [保留中の削除の表示, 2 ページ](#)
- [保留中の削除のプロパティの削除, 2 ページ](#)
- [保留中の削除のプロパティの変更, 3 ページ](#)
- [保留中の削除の削除, 4 ページ](#)

分散仮想スイッチの保留中の削除

明示的に、あるいは階層内の親オブジェクトを削除することで、Cisco UCS Manager から分散仮想スイッチ (DVS) を削除すると、Cisco UCS Manager は VMware vCenter との接続を開始し、DVS の削除プロセスを開始します。DVS が VMware vCenter から正常に削除されるまで、Cisco UCS Manager は DVS を保留中の削除リストに入れます。

ただし、次のように特殊な状況が発生すると、Cisco UCS Manager は VMware vCenter から DVS を正常に削除できません。

- VMware vCenter データベースが破損した。
- VMware vCenter がアンインストールされた。
- VMware vCenter の IP アドレスが変更された。

DVS を VMware vCenter から正常に削除できない場合、Cisco UCS Manager で保留中の削除が削除されるか、VMware vCenter から DVS が正常に削除されるように、保留中の削除のプロパティが変更されるまで、DVS は保留中の削除リストに残されます。保留中の削除を削除すると、DVS は Cisco UCS Manager から削除されますが、VMware vCenter からは削除されません。DVS が VMware vCenter に残っている場合、DVS を手動で削除する必要があります。

Cisco UCS Manager では、保留中の削除リストの表示、保留中の削除の削除、または保留中の削除のプロパティの変更を行えます。たとえば、保留中の削除の VMware vCenter IP アドレスを修正

すると、Cisco UCS Manager は接続を開始して、VMware vCenter から DVS を正常に削除できるようになります。Cisco UCS Manager からの DVS の削除を取り消すことはできません。

保留中の削除の表示

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|---|
| ステップ 1 | UCS-A# scope system | システム モードを開始します。 |
| ステップ 2 | UCS-A /system # scope vm-mgmt | システム Virtual Machine (VM; 仮想マシン) 管理モードを開始します。 |
| ステップ 3 | UCS-A /system/vm-mgmt # scope vmware | システム VM 管理 VMware モードを開始します。 |
| ステップ 4 | UCS-A /system/vm-mgmt /vmware # show pending-deletion | 保留中の削除のリストを表示します。 |

次に、保留中の削除のリストを表示する例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # scope vm-mgmt
UCS-A /system/vm-mgmt # scope vmware
UCS-A /system/vm-mgmt/vmware # show pending-deletion
```

```
Pending Deletion:
  Id           Host           Distributed Virtual Switch
  -----
  1169232      192.168.10.10   LabDVS
  1176508      192.168.100.20  OpsDVS
  1176508      192.168.1.30    MyDVS
  1176508      192.168.1.40    OtherDVS
```

保留中の削除のプロパティの削除

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--------------------------------------|---|
| ステップ 1 | UCS-A# scope system | システム モードを開始します。 |
| ステップ 2 | UCS-A /system # scope vm-mgmt | システム Virtual Machine (VM; 仮想マシン) 管理モードを開始します。 |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|--|
| ステップ 3 | UCS-A /system/vm-mgmt # scope vmware | システム VM 管理 VMware モードを開始します。 |
| ステップ 4 | UCS-A /system/vm-mgmt /vmware # scope pending-deletion deletion-id | 指定された保留中の削除のシステム VM 管理 VMware 保留中の削除モードを開始します。 |
| ステップ 5 | UCS-A /system/vm-mgmt /vmware/pending-deletion # show detail | 保留中の削除のプロパティを表示します。 |

次に、割り当てられた番号（この例の場合は番号 1169232）を使用して、特定の保留中の削除のプロパティを表示する例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # scope vm-mgmt
UCS-A /system/vm-mgmt # scope vmware
UCS-A /system/vm-mgmt/vmware # scope pending-deletion 1169232
UCS-A /system/vm-mgmt/vmware/pending-deletion # show detail

Pending Deletion:
  Id: 1169232
  vCenter: vCenterLab
  Host: 192.168.10.10
  Data Center Folder:
  Data center: Lab
  Folder: LabFolder
  Distributed Virtual Switch: LabDVS
  Extension key: Cisco-UCSM-b32cc112-83bb-11de-acc_7
  Certificate:
  Current Task: external VM manager deletion from local fabric
(FSM-STAGE:sam:dme:ExtvmmSwitchDelTaskRemoveProvider:RemoveLocal)
```

保留中の削除のプロパティの変更

必要があれば保留中の削除項目のプロパティを変更し、Cisco UCS Manager が正常に接続を開始して DVS を VMware vCenter から削除できるようにすることができます。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|---|
| ステップ 1 | UCS-A# scope system | システム モードを開始します。 |
| ステップ 2 | UCS-A /system # scope vm-mgmt | システム Virtual Machine (VM; 仮想マシン) 管理モードを開始します。 |
| ステップ 3 | UCS-A /system/vm-mgmt # scope vmware | システム VM 管理 VMware モードを開始します。 |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|--|
| ステップ 4 | UCS-A /system/vm-mgmt /vmware # scope pending-deletion deletion-id | 指定された保留中の削除のシステム VM 管理 VMware 保留中の削除モードを開始します。 |
| ステップ 5 | UCS-A /system/vm-mgmt /vmware/pending-deletion # set { certificate certificate-name data-center data-center-name data-center-folder folder-name folder folder-name host { hostname ip-addr }} | 保留中の削除の指定されたプロパティを変更します。 (注) IPアドレスではなくホスト名を使用する場合、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定する必要があります。 |
| ステップ 6 | UCS-A /system/vm-mgmt /vmware/pending-deletion # commit-buffer | トランザクションをシステムの設定にコミットします。 |

次に、特定の保留中の削除（この例の場合は、番号 1169232）について、ホスト IP アドレスを 192.168.10.20 に変更し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # scope vm-mgmt
UCS-A /system/vm-mgmt # scope vmware
UCS-A /system/vm-mgmt/vmware # scope pending-deletion 1169232
UCS-A /system/vm-mgmt/vmware/pending-deletion # set host 192.168.10.20
UCS-A /system/vm-mgmt/vmware/pending-deletion* # commit-buffer
UCS-A /system/vm-mgmt/vmware/pending-deletion #
```

保留中の削除の削除

保留中の削除項目を削除すると、DVS は Cisco UCS Manager からは削除されますが、VMware vCenter からは削除されません。DVS が VMware vCenter に残っている場合、DVS を手動で削除する必要があります。

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|---|---|
| ステップ 1 | UCS-A# scope system | システム モードを開始します。 |
| ステップ 2 | UCS-A /system # scope vm-mgmt | システム Virtual Machine (VM; 仮想マシン) 管理モードを開始します。 |
| ステップ 3 | UCS-A /system/vm-mgmt # scope vmware | システム VM 管理 VMware モードを開始します。 |
| ステップ 4 | UCS-A /system/vm-mgmt /vmware # delete pending-deletion deletion-id | 指定された保留中の削除を削除します。 |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|--------|--|---------------------------|
| ステップ 5 | UCS-A /system/vm-mgmt/vmware # commit-buffer | トランザクションをシステムの設定にコミットします。 |

次に、特定の保留中の削除（この例の場合は、番号 1169232）を削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # scope vm-mgmt
UCS-A /system/vm-mgmt # scope vmware
UCS-A /system/vm-mgmt/vmware # delete pending-deletion 1169232
UCS-A /system/vm-mgmt/vmware* # commit-buffer
UCS-A /system/vm-mgmt/vmware #
```

